

ドラマデザイン社 公演シナリオ

「ゲートシテীর恋」

脚本・林さとみ

長谷賢治

【登場人物】

成宮 輝人（17）……ゲートの外にある貧困街で暮らす孤児。

沢村 美博（17）……ゲートシティーの士官候補生。

今野 沙里花（17）……士官候補生。

新川（21）……美博の許婚。士官学校の医師。

冬馬（17）……輝人の家族。

谷中候補生（16）……士官学校の同期。

ソラ（15）……輝人の家族。

宇崎候補生（16）……士官学校の同期。

ひかり（13）……輝人の妹。

篠宮上官（20）……士官学校の上官。

ドクター（30）……闇医者。ゲートの中と外を渡り歩く。

ノエル……美博の世話係のアンドロイド。

●舞台にスポット

小さなカメラから壁に映像が投射されている。

上手・美博（セーラー服）現われ、本（シエークスピア）を開く。

美博

どうやってこの場所に入ってきたのですか。どなたの案内でいらしたのでしょうか？

下手・輝人（扮装）が現れ、同じく本を開く。

輝人

愛に導かれてやってきました。あなたがどれほど離れていようと、そこがはるか遠く、海に洗われる広大な岸辺であったとしても、私はあなたという宝を求めて旅に出ましよう。

暗転

○輝人たちの家

ここは近未来。

ゲートの外の貧困街にあるポロ家の中。

発作に苦しむひかり（13）。

ひかりを介抱する冬馬（17）とソラ（15）。

ソラ ひかり、ひかり、ひかり！ 返事して！

冬馬 ひかり、今、輝人がくるからね。

成宮輝人(きと・17)、ドクター(30)を必死で引つ張って
くる。

輝人 ドクター！ ほら、早く！

ドクター イテテッ。ったく、せつかくいい酒が入って、楽しみに飲もうと
してたのによ。

輝人と冬馬とソラ、一斉に武器(ナイフやロープなど)を構え
て、ドクターを睨む。

ドクター 冗談。冗談だよつ。

ドクター、ひかりを診察し、鞆から注射器を出して薬を打つ。
少しずつ落ち着いていくひかり。

輝人 大丈夫か、ひかり。

ひかり お兄ちゃんこそ、なにその顔……もつと笑ってよ……。

輝人 笑えるかよ、お前がそんなんで……。

ひかり なんで？ ドクターのお陰で、良くなったよ、見て？

ひかりは勢いよく起き上がろうとするが、むせ返る。

輝人 ひかり！

冬馬 寝てなきゃだめだよ

ソラ もう、なにしてんのバカ！

ひかり ぜんぜん、大丈夫。

冬馬 みんな。少しひかりを休ませよう。

輝人 ……わあったよ。

輝人、ドクターに金を渡す。

輝人 妹のこと、またたのむぜ、おっちゃん。

ドクター ……すまん。

輝人 ははは！ なんだよ。すまんって？

ドクター もう、どうにもならねえのよ、これが……。

輝人 は。そーかいそーかい。そう言っただ元見るつもりだろお。

ドクター バカ言っただんじゃねえぞ小僧。俺が今までどれだけ治療費安くして
やったと思っただ。

輝人 じゃあ、おっちゃん。何の薬を使えばいいかだけ教えてくれよ。

ドクター ないんだよ。ひかりに、効く薬なんて。

輝人 それは聞きたくねえ。

ドクター 聞け。ひかりの発作は病気なんかじゃなかったんだよ。あれは、薬
の過剰摂取による副作用だ。

輝人 副作用……？

冬馬 ひかりの虚弱体質を、根本から治さないといけないのか？

ドクター そうだ。今のままじゃひかりは、感染症を患い続ける。病気になる
たびに、薬も打つ。とてもじゃないが、体が持たん。

輝人 おふくろの二の舞だ。

ドクター ゲートの病院から、薬をくすねてくるのも限界だ。

ソラ な、何か方法はないの！？

ドクター ない……わけじゃない……。

輝人 なんだよ。

ドクター お前らにはなあ……。

輝人 もったいぶってねえで言えつつうの。

ドクター ……ゲートの向こうには、遺伝子操作で生まれてきたエリートばか

りがいるのは、知ってるな。

立ち上がる輝人とソラ、冬馬

冬馬 うん、食べ物でも薬でも、連中が独占してるって聞いてるよ。

輝人 あんたもそっち側の人間だろ？

ソラ 酒のためにこっちに時々来てんだよな！

ドクター そんな目で俺を見るなよ。あっちじゃバカみたいにアルコールを禁

止しやがるの。俺の唯一の幸せを奪うなってんだよ。

冬馬 もう。話を元に戻してよ！

ドクター ああ。連中、お前らと違ってな、細菌にめっぽう弱いんだ。

冬馬 細菌。病気になるやすいってこと？

ドクター ああ。だから軍人は、ゲートの外に出るとき、命の盾という名のマ

イクロマシンを装備して、感染しにくい体になれるよう、調整してる

わけよ。

ソラ あんたはどうなんだ？盾をしてないじゃないか。

ドクター 俺はゲートが出来る前に生まれたから、免疫が出来てる。でも、ほ

んどど若い連中は、命の盾なしには出られない。

輝人 命の盾？ そうか、それを、ひかりに付けてやればいいんだな！

冬馬 無茶だよそんなの！ 連中から盗むつもり！？

輝人 冬馬。俺らが何年盗つ人稼業をやっているとってんだよ。

冬馬 第一、どうやってゲートの中に忍び込むんだよ？

ソラ ドクター、秘密の抜け穴教えてくれるよな。

酒瓶を見せびらかせて。

ドクター しょうがねえなあ。

ソラ よし。行くしかないよ！

冬馬 行くか！？

輝人 ゲートの向こうに！

M1 「ゲートの向こうへ」 輝人、ソラ、冬馬、ひかり

星の光が 燃えている

はるかな空を 駆け抜けた

冬よ 闇よ 明けろ

ゲートの向こうは 輝く街

夜空の星さえも 呑み込んだ

スラム街は 陰るばかり

身を寄せ 寒さをしのいでる

お偉いがたは あざ笑う

ここに暮らす者は ろくでなし

そうさ僕らは 盗賊気取り

地を這い 明日を探してる

ああ 涙で 何が変わるだろう

いつそ 抗えよ 息絶えても

用意された 正義じゃ間に合わないさ

いま向かおう ゲートの先へ

進路は ひとつだけさ

輝ける星を みつけたら

それを道しるべに 走り出そう

きつと願いは 叶うはずさ

恐怖を蹴散らせ 勇気を振りかざせ

力に 逆らえ

勝ち取れ 僕らの 明日を

○ゲートシティー・士官学校

並んでいる候補生の前に篠宮上官が現れる。

篠宮上官 みなさんおはようございます。

候補生たち おはようございます。

篠宮上官 これはいわば、あらゆる細菌への予防接種のようなものよ。このマイクロマシンを静脈に挿している間、あなた方に抗体を作ってくれるわ。

制服を着た士官候補生たちが立っている。

沢村美博(17)も、その中でピンと姿勢を伸ばしている。

沙里花(17)は苛々落ち着かない様子で床を見ている。

候補生たちの間を縫うように歩く篠宮上官(20)。

篠宮上官 あなた方の主な任務は、ゲートシティーの外から侵入する貧民たち

を撃退すること。そのためには、今まで以上に念を入れて、細菌

から身を守る必要があるの。この理由がわかる人？

谷中候補生 はい！ 貧民たちは、ゲートシティーの外、汚染された大気の中で生活しています。細菌にまみれており、私達には有害です。

篠宮上官 そうです。彼らは私たちと見た目は似ています。でも、同じではな

いの。

篠宮は美博たちに命の盾を手渡ししていく。

美博 これが……命の盾、ですか？

篠宮上官 そうよ。これがあなた方の命綱です。ゲートの外にも出られるわ。

候補生たちは腕に命の盾を装着する。

宇崎候補生 ゲートの外の人間は、触ったりするだけで危ないんですか？

篠宮上官 そう。彼らは毒そのものだと思いなさい。気をつけて。

SE 鐘の音

篠宮上官 入学おめでとう。そして、ようこそ。未来の兵士たち。期待してい

ます。

候補生たち はい。

候補生たちは声を揃えて返事をし、退場してゆく。

美博と沙里花も行くこととする。

篠宮上官 沢村美博さん。

美博 はい。

篠宮上官 今期の入学者で、あなたは成績がトップでしたよ。

美博 ありがとうございます！

沙里花 すごおい。

篠宮上官 毎年、学年を取りまとめるリーダーを選出しているのだけれど、沢

村さん、あなた、やってもらえないかしら。

沙里花 すごい、やるじゃん。ぜったいやったほうがいい。

篠宮上官 あなた。名前は？

沙里花 あたし？ 今野沙里花。好きな食べ物は〇〇と〇〇、嫌いな食べ物は

〇〇。

篠宮上官 (手帳を見て) 成績は……と、よく入れたわね。

沙里花 すいませえーん……。

篠宮上官 なるほどね。学校の提携病院の院長の娘さん。

沙里花 うん、そうだよ。

篠宮上官 親のコネで入学できても、中では容赦しないわ。

沙里花 はい。

篠宮上官 (咳払い) ……沢村さん、いいかしら？

美博 はい。もちろんです。

篠宮上官 よろしくお願いね。

篠宮上官は去ってゆく。

沙里花 何、あれ、超むかつくんですけど。うざい。(美博に握手を求めて)

沙里花よ。

美博 よろしく。

沙里花 よろしく。なんでよりもよってあたしが士官学校なんかに入學しな

きゃなんないだと思っう？

美博 しょうがないよ。国が決めた適性の結果だし……。

沙里花 十七歳になった途端、色々一気に決まり過ぎなんだよ。

美博 そうだね……婚約者も、決まったみたいだし。

沙里花 そうそれ！ ねえ、美博ちゃんの相手って、どんな人だった？

美博 えっと……。

沙里花 あ。その顔。変な男だったんだ？

美博 そうじゃないけど。私、家族は、いらぬい。

沙里花 なんて？

美博 家族持つ、自信ない。

沙里花 まだ、十七だしね。

美博 今は、ゲートを守る立派な兵士になりたい。

沙里花 真面目だねー。このあとどうする？遊びに行こう！

二人は歩いてその場を後にする。

○士官学校・前

輝人、ソラが走っている。冬馬、遅れて走っている。

ソラ うわ、めっちゃめっちゃきれい。

輝人 何だこりゃ。

冬馬 待つて。

輝人 冬馬あー。なにちんたら走ってるんだよ。

冬馬 ゲートの中に入ったのは初めてだから。

輝人 すげえだろ？チリひとつおちてねえ。俺たちの世界とはえらい違いだ。

冬馬 あいつらが、俺たちをゴミ呼ばわりするのはわかる気がする。目立つ

てすぐに見つかっちゃうよ。(自分の首にナイフをつきつけ) こうなる

んだぞ。分かるか。やっぱ帰る。

輝人 ちよつと待てよ。

ソラ あんたねえ。ここまで来るのにだつてどれほど苦労したと思つてんの

さ！

輝人 そうさ、こんなの余裕だよ。



冬馬 ……1万6000人中、1万4000人だよ。

輝人 ああ？ なにが。

冬馬 外の人間がゲートの中に入って、殺された者の数！

輝人 1万6000人と1万4000人で、ああ3万人か？

ソラ 違う、1万6千人分の1万4千人、あれ？

冬馬 もういいよ。仮にその2000人に僕らが入れたとして、この先はどうするかちゃんと考えた！？

ソラ 冬馬。あんたが言ったんでしょ。軍人から命の盾を奪うのは無理だから、ひよつこの士官候補生ならどうか、って！

冬馬 普段僕らがやってるこそ泥とはわけが違うんだよ！ 戦闘訓練を積んだ奴から盗むなんて、殺るか殺られるかなんだぞ！？

輝人 わかってるよ……。

冬馬 いや、輝人は、なんにもわかってない！

輝人 ひかりを助けなきゃ、俺がもたねえんだよ！！

冬馬 ……でも、そんなの、ひかりは、喜ばない。

輝人 冬馬。俺になんかあったら、皆のこと頼む。約束してくれ。

冬馬 そんな約束するか。皆で無事に帰るんだ！

輝人 へへ。ほんっとつれねえよなあ、お前って奴は……。

ソラ 輝人！ 冬馬！

ソラが顎でそびえ立つ士官学校を指す。

輝人と冬馬も見上げる。

輝人 ついたの、か……？？

冬馬 ここが、士官学校……。

ソラ (石を拾って、投げる) うりゃ！

冬馬 うわああああ！ やめろよお！！この世の終わりだ。

ソラ うるさいね。連中おびき出さなきゃどうしようもないじゃんか。

冬馬 そそそそそそういうのは打ち合わせしてからやろうよ、ねえ！？

輝人 ま、石でおびき寄せるつても、ちつとなあ。見てな！

輝人は二人から離れて地面に横たわり、ピースサイン。

輝人 (歌うようにして) 死んだふりしておびき寄せる……

ソラ あちゃー。

冬馬 本当に死ぬよ、輝人！？

ソラ 見てらんないよ、もう！ どこか入れるとこないか、探そう。

冬馬 う、うん。

冬馬とソラ、はける。

美博がやってくる。輝人を見て、

輝人 誰か、誰か死ぬ。

美博 あ……あなた、どうしたの！？ 大丈夫！？

輝人は怪我をしている振りをして、

輝人 ううっ……くっ……君は……士官候補生……？

美博 ええ、そうです。しつかり！

輝人 ああ、助けてくれて…… (ニヤッと笑う) ありがとよ。

美博 え……？

輝人は美博の襟を掴み、一気に組み敷く。

美博 うわあっ！

輝人 士官候補生って女もいんのかよ！？

美博 当然だろ！ 私を男だと思ったのか！

輝人 マジかよ、女に手を出す趣味はねえんだけどなあ。まあいいか……。

美博 ……まさかお前、ゲートの外の人間か！

輝人 ご名答だよ。

美博 なっ！ 汚い！

輝人 おーおー。まったく俺はバイキン扱いだよ。

輝人 輝人、ナイフを取り出す。

輝人 命の盾はどこだ……！（腕の盾をみて）これか？

美博 誰が渡すか！

輝人 なら、力づくで奪うまでだ！

美博 ナイフを突き付ける

美博 くそっ！

輝人、美博に顔を近づけて、まじまじ見る。

美博 なんだ？

輝人 その目…。

美博、輝人を跳ね飛ばし立ちあがる。

輝人も立ちあがって、ポケットから冒頭のカメラを出し、液

晶の画像と美博をまじまじと見比べる。

輝人 動くな。こっちを向いてみる。

美博、ナイフで脅され云う通りにする。

輝人 ちよちよつと、笑ってみ。

美博 っ！ なこと出来るかっ！

輝人 ……（次の画面を出して）こんどは振り向いて、舌を出せ。

美博 絶対、殺す！

といいながら、振り向く。

輝人 すげえ、おんなじだ……嘘だ……これ、まさか…

輝人 輝人、おそろおそろ美博に近づいて、カメラを突き出す。

輝人 ここに写ってんの、お前？

美博 あ、わたしの子供のときの……。これ、お父さんの大切にしていたカメラだ。なんでお前が！

輝人 いや、昔、ゴミ捨て場で拾ったんだ。

美博 お父さん、無くしたって言ってた。ゴミと混ざってゲートの外に捨てられてたんだ。返せ！

輝人 ……断る。

美博 拾得物は持ち主に返すものだろ。

輝人 ゲートの中の法律は、俺達には関係ねえ。これはずっと俺のものだった。

美博 ……そんな旧式のカメラ、持っても仕方がないだろ。最新式のカメラと交換してやってもいい。

輝人 （一瞬ぐらつくが）…ダメだ！おれは、これが気に入ってるんだ。

美博 頼む。お父さんと私の大切な思い出が詰まってるんだ。

輝人 知ったこっちゃねえ。また親父さんに写真撮ってもらえ。

美博 ……もう死んだよ。

輝人 え？！

美博 4年前…事故で。

輝人 ……そうか、悪かった。（照れくさそうにカメラを渡しながら）うん、うん。

美博 ありがと。

美博、愛おしそうにカメラを触れる。

美博 案外、素直なんだな。

輝人 家族との思い出の写真か…。

美博 家族との思い出の写真か…。

美博 家族との思い出の写真か…。

美博 家族との思い出の写真か…。

美博 家族との思い出の写真か…。

美博 お前にもあるだろ。

輝人 ねえよ。

美博 そうなのか……。(カメラを点検して)壊れてないのが、不思議だ。

輝人 いやー、しょっちゅう修理してた。

美博 こっちを向いてみる、舌を出せ。

美博、輝人にレンズを向け、シャッターを押す。

輝人 うわっ！撮るな！

美博 ほんとに素直だ。ちゃんと写る……。ん？……。それで、お前はなんでこれ

を持ち歩いてんだ？

輝人 ……なんつうか、便利だろ、風景とか撮るのに……。

美博 私その他に何も写ってない……。

輝人 あ、いや、それは、

ソラが走ってくる。

ソラ 輝人！大丈夫か！？

美博 誰だ？仲間か？

美博が油断した隙に、輝人のナイフが美博の喉元に突き付けられる。

輝人 命の盾を渡せ。

美博 ゲートの外の人間が、なぜこれをほしがる？！

輝人 ……必要なんだ。妹のために。

美博 妹？……命の盾は国のものだ。渡せない！

輝人 ……お前、死ぬよ。

美博 殺せばいいだろ。

輝人、ナイフを構え直す。呼吸が震える。

ソラ 輝人！ 同情してる余裕はないよ！殺っちゃいな！

輝人が美博を掴む。

美博は輝人をにらみつける。

輝人 お、俺を見るな。

美博 は、見られてると殺せないのか。

ソラ もういい！ あたしがやる！

沙里花が走ってきて、輝人にスプレーをかける。

沙里花 何してるの？どきなさい！

輝人 (目を抑えて)うわっ！

沙里花 (美博に)なんなのこいつら！？

ソラ 催涙ガスだ！一旦引くよ！

輝人 おう……。

美博 待て！

輝人、ソラ、冬馬が退散していく。

沙里花 大丈夫だった？

美博 私はいいからあいつらを追って！ゲートの外から来た連中だ！

沙里花 ちよつと。マジ？

美博 入学早々、こんな失態、許せるか……！！

沙里花 黙ってればバレないってえ。

美博 プライドの問題だよ！

沙里花 あの子を追うのは、態勢を整え直してからにしましょ。

美博、カメラを見る。

沙里花、それを手に取り。

沙里花 え、すご！博物館にあるようなカメラじゃん。(見て)写ってるの

美博ちゃん？

美博 12の頃の写真。

沙里花 可愛い。

美博 家族がみんな揃っていて幸せだった頃。

沙里花 今は？

美博 お父さんは、軍のパイロットだったの。120歳まで生きる遺伝子を持っていたはずなのに、36で死んだわ。飛行機事故だった。

沙里花 事故なら仕方がないじゃない。

美博 …あいつ、なんで、これを持ってたんだろう。

沙里花 ひよつとして、この写真の美博ちゃんに…恋してたんじゃない？

美博 (遮って) バカなことを言わないで。

美博・沙里花、舞台からはける。

○街路(舞台上手)

走って逃げている輝人、冬馬、ソラ。

三人は立ち止まって、息を整える。

輝人 くそ！

ソラ 輝人、おまえ、人ひとり殺せないのかよ。

輝人 すまん…：ひかりの命がかかってんのに…。

ソラ あんたまで臆病者だとは思わなかった。

冬馬 正しいんじゃないの。人を傷つけずにいられたじゃない…。

ソラ ひかりがどうなっても良いってのかよお前は。

冬馬 そんなわけないだろ！

ソラ 冬馬も臆病だもんねえ。

冬馬 うるさいな…。輝人。

輝人、目を抑えている。

冬馬 どうした？目、変なんでしょ。ちょっと見せて。

輝人 こんなの、なんともねえよ。

冬馬 いいから！

冬馬、輝人の目を覗き込む。

冬馬 見た感じ、なんともなさそうだけど…。

ソラ 痛い？

輝人 いんや。

冬馬 毒じゃなきゃいいけど…。

ソラ 毒！？

ソラは輝人に水を渡す。

輝人が水で目を洗う。

○医務室 (舞台下手)

美博、カメラを持って入ってくる。

美博 (輝人の写真を見て) あいつ、変な顔…。

沙里花が検査キット持って入ってくる。

美博、慌ててカメラを隠す。

沙里花 大丈夫？今、調べるね。

美博 動悸がひどいの…。

沙里花は綿棒で美博の唾液と、爪に入った皮膚をぬぐい、

検査キットに入れる。

○街路 (舞台上手)

輝人、顔を手でぬぐう。

ソラ 動悸？

輝人 いや、心臓が……。

ソラ 心臓!?

輝人 あ、いや、大したことはねえんだけどさ……。……。

輝人、胸を抑えている。

○医務室 (舞台下手)

美博、胸を抑えている。

M2 「心臓の針」 美博、輝人

体が熱に乱され

指先が震えてしまうの

手にした覚悟を

揺るがすのは君

あなたを一目見たときから

涙の予感で溺れそう

心臓に

針が流れて

全身を狂わせる

今

言葉に出来ない高鳴りが

無慈悲な願いを生み出した

恋ならば どうか目覚めて

衝動が打ち寄せる

今

輝人、(ソラ、冬馬) 退場。

沙里花、検査結果を見る。

沙里花 もしかしてさあ、美博ちゃん。

美博 なに？

沙里花 男の子に触ったの、初めてなんじゃない？

美博 え……。

沙里花 陰性だけど。

美博 (検査キットを奪って見る) そんなはずない!

沙里花 恋かしら。

美博 恋とか今どき流行ってないから! 第一、その言葉使ったら、反逆

罪だよ!?

沙里花 反逆罪。大袈裟ねえ。バレなきゃ罪に問われないですよ。

美博 でも、婚約者、もう決められてるよね!?! 沙里花だって!

沙里花 結婚と恋は別物よ。

美博 ……沙里花は、決められた以外の人と恋をしたこと、あるの？

沙里花 どうかしらねえー!

美博 今更隠さないでよ。キスは、した……??

沙里花 あーっと。

美博 否定しないんだ!?

沙里花 別に、どうってこともないわよ、キスなんて。

美博 じゃあ、教えてよ……??

沙里花 つまらない話よ……。

美博 聞きたいな、私。

沙里花 ……まだ8歳のとき、アンドロイドの廃棄場はいきじょうに行ったの。あちこちに機械の頭が転がってて……剥き出しの目があ……こつちを見るのおお
く!!!

美博 うわあ脅かさないでよ！ なんでまたそんな場所に……。

沙里花 仲の良かった男の子がいてね。ま、肝試しってやつ？

美博 その子を、好きになったの？

沙里花 そう、ねえ……好きと言うより、同情しちゃったのよね。

美博 同情？

沙里花 ……少し高いところに、アンドロイドの指が見えてね。何かがキラッと光ったわ……指輪だった。

美博 えっと、廃棄されたアンドロイドが、指輪をしてたってこと？

沙里花 そう。不思議よねえ。あたし、どうしてもそれが欲しくなっちゃって、鉄くずを足場にして登ったの。男の子は降りて来いってずっと怒ってた。

美博 それはそうだよ、危険だし。

沙里花 ……指輪を掴んだときにね、足場が崩れて、スクラップされた金属の上に落ちたの。

美博 スクラップって……細かくした金属ってこと？

沙里花 そう。破片のひとつひとつが、刃やいばみたくなっていたのね。

美博 えっ……!!

沙里花 あたしは、怪我をしなかった。下にいた彼が、あたしの身体を両手で受け止めたからよ。でも、彼も子供だった。重みに耐えきれずに、彼の両手は、破片の中に沈んだの。

美博 ……怪我、したんだね。その子。

沙里花 ……左手の神経を切って、間もなく義手になったわ。

美博 ……ごめん、沙里花。私、話したくないことを話させたよね……。

沙里花 いいえ。

美博 その人と、キスしたの？

沙里花 ……うん。その日から、ずっと後にだけどね。私、これ(検査キット)返してくる。

沙里花、はける。

新川 (21) が入室する。新川は白衣を着ている。

美博 うわっ……新川さん……。

新川 ……美博さん、いらっしやいましたか

美博 ……どうして、あなたがここに。

新川 美博さんがこの学校に入学されたと聞いて、早速、学校の専従医師に志願したんです。

美博 へえ……。

新川 まもなく結婚するのだから、少しでもお互いを知らなくてはと思ってね。

沙里花、戻ってくる。

沙里花 美博ちゃん、このあとどこ遊びに行く？

沙里花、新川に気付き、固まる。

美博 あ、沙里花、この人が、私の婚約者……。

沙里花 ……(一瞬、硬直して)

美博 あれ、お知り合い？

沙里花 ……あ、パパの病院で……

新川 (しらじらしく) そうですよ、お嬢さんでしたねー。

美博 ……沙里花さんのお父さんの病院にお勤めなの？

新川 ここに赴任する前までは。ゲートの世界は狭いですね。

沙里花 ホンとよねー。

新川 ところで美博さん、医務室にどうして？

美博 ああ、ちよつと……。

沙里花 襲われたの。ゲートの外の人間から。

新川 ああ。あんな野蛮なやつらに襲われて、その程度の怪我でよかつたじゃないですか。

沙里花 悪いけど、殿方は出て行つてくださる？ 私たち、体に付いた細菌を

落としたいので。

新川 それは、失礼しました。

新川は去っていく。

美博 見たでしょ？ なんかロボットみたいな感じしない？

沙里花 ……。

美博 イメージが湧かないの……。あの人と家庭を持つなんて。

沙里花 ……。

○美博の家

お手伝いさん風の女の容姿をしたアンドロイド、ノエルが登場。
場。

ノエル、美博の方に駆けよるが、勢いよく転んで、腕が変な方向に曲がる。

美博 (ノエルの腕を直す) あーあー……。

ノエル (倒れたまま歩いている) そこに段差があるのを忘れてました。

美博 ポンコツなんだから気を付けて。

ノエル ポンコツとは失礼な！ (腕を回す)

美博 人間は怪我くらい自然に治せるけど、ノエルは壊れたら廃棄処分になるんだからね。そろそろ自分を労わって！

ノエル ……正確な言語でお話してください。ノエルはポンコツなので。

美博 (笑つて) ムキになんないですよ。

ノエル あ、そういうえば美博様！ 火星へ赴任中の円さまから、ご連絡がございましたよ。

美博 お母様から？ 何カ月ぶり？

ノエル 4カ月ぶりでしょうか……。

美博 ……無関心もいいとこだよね。

ノエル こんどは、火星開発長官にご出世されるとか。

美博 仕事ばかり。

ノエル まあまあそうおっしゃらずに。

美博 で？ 用件は？

ノエル ご結婚についてのお話でした。

美博 そう……。

ノエル お顔をお上げください。新川様は美博様と遺伝子相性が第一位。軍の医大を首席で卒業され、発明家としても大変優秀なお方ではございませんか。

美博 そうだけど……。

ノエル 美博様のお誕生日に、ご結婚されてはどうかと仰っていましたが。

美博 え？ ええ！？ それつてもう、来週だよ？ 本当なの？

ノエル うーん。ノエル、とうとうメモリが壊れたでしょうか。

美博 ちよつと！ ちゃんと確認しておい……

ノエル ああ大変！ お客様がいらつしやいました(美博から離れる)

美博 もう……。

ノエル、新川を連れてやつてくる。

ノエル 美博様。新川様がいらつしやいました。
美博 えっ!?

ノエルは二人から離れる。
ノエル お茶いれてきます。

新川 ノエル、小走りで舞台からはける。
新川 結婚のこと、ご連絡いただきましたよ。

美博 ああ、あれは、母が勝手に……。

新川 いえ、僕も、早い方がいいと思っけています。挙式について、資料を作
成しましたので、お目通しいただけますか。

美博 挙式……。

新川 気が乗らないのですか。

美博 だって、私たち、お互いをよく知らないんですよ。これから生涯かけ
て一緒に暮らしていくのに。

新川 ははは……。

美博 なにかおかしなこと言いましたか?

新川 ごめんなさい。美博さん、ロマンチストだな、って。

美博 え?

新川 結婚は、信頼関係によってするものだとお考えなんでしょう? 美博
さんは。

美博 そりゃあ、信頼があれば、いいなどは、思いますよ……。

新川 知ってます? そういう考え方ってね、犯罪者が好むんですよ。

新川 絆を求める人というのは、潜在的に、孤独を怖れているのでしょう。
でもね、美博さん、よく考えてみてほしいんです、が。

美博 は、はい。

新川 よくも悪くも、愛だとか、絆ってものはね、感情をしょい込むんです

よ。

美博 それが悪いことですか?

新川 国の答えて言えばね、悪いことなんです。リスク回避が出来ない人間
は、優秀とは言えませんから。

美博 ええと……。

新川 わかりませんか。つまりこういうことです。安全で、幸福な未来のた
めに、僕たちは、結婚をするんです。システムを利用してね。

美博 それなら、なんとなく、わかるんですが……。

新川 よかった。ゲートの外の人間たちと、同じになっては、いけませんよ。
住む世界が違うんだ。それに、やつらは雑菌まみれで危険だ。パトロ
ール中のあなたも気をつけなければ。

美博 わかっています……わたしには、命の盾が支給されています。

新川 ああ、これ。僕が開発したものです。

美博 本当ですか?

新川 知らなかったのですか? 政府からも表彰されていますよ。

美博 すごい!……ひとつ分けていただくことはできませんか?

新川 ダメです。すべて、厳重にシリアルナンバーで管理されています。

美博 ……じゃ、命の盾でなくてもいいんです。何か、同じような機能のある
ものがあれば……。

新川 (怪しんで) なぜ、そんなものがあるんですか?

美博 あ、いや、何かあったときの予備のために……。

新川 ふーん。開発中に作った試作品は手元にありますがね。

美博 あ、それでも構いません。私、心配性で、もし警備の途中に盾を落と
しちゃったりしたら、死んじゃうかもー、なんて……。

新川 わかりました。探しておきます。きょうは、とりあえずこちらを……。

美博さんはピンクのドレスがいいと思うんですが。

新川は美博に資料を渡そうとする。

美博が受け取ろうとするが、資料がばらばらと手元から落ちる。

美博 あ、ごめんなさい！すみません。

美博、椅子から立ち上がって資料を拾う。

新川は拾い集めて、美博に左手を差し出す。

美博が新川の左手を握るが、すぐ驚いたように手を離す。

美博 えっ!?

新川 ああ。これね。

美博 あ、あの、ごめんなさい……。

新川 硬いですよね、僕の手。

新川は右手を出す。

美博は新川の右手を握って立ち上がる。

美博 もしかして……。

新川 そうですよ、義手ですよ。

美博 どうして……？

新川 まあ、くだらない事故ですよ……。

美博 事故、って？

新川 ……いずれ、お話します。

ノエル、お茶を持って現れる。

ノエル 美博様、お茶の用意が出来ました。

新川 (ノエルを一瞥して) ああ、そうそう、美博さん。

美博 はい？

新川 これ。アップグレードしたらどうですか。もう関節とかが、ガタが来
てます。

美博 ……いえ、私は彼女が、気に入ってますので！

新川 彼女。

新川は笑って去っていく。

ノエル ま、またお越しくださいませ、新川様。

ノエル向き直って、美博を見る。

ノエル 美博様…私の関節、大丈夫ですよ。それより、お顔の色がよくありま
せん。(体に触れ) 脈拍・血圧・体温は正常…。心臓の波形が乱れてる

…念のため精密検査を…。

美博 いいの、原因はわかってる。

○輝人の家・前

冬馬、ソラが話している。

ひかり、外を見ている。

冬馬 あーあなんで命の盾を奪えなかったんだろ。

ソラ あんたが石を投げるのを止めたからでしょ。

輝人、帰ってくる。

輝人 ひかりは!?

冬馬 そこにいるよ。

輝人 ひかり、ひかり。寝てなきやダメだろ。

輝人はひかりの額や頬に手をあてる。

輝人 何を見てる？

ひかり ……星が……。

輝人 星？

ひかり 流れ星！ 流れ星が落ちたの。見とれちゃってさ……。

ソラ 流れ星かあ！ 珍しいね！

輝人 ゲートシティーの明かりのせいであんまり見えないもんな。

冬馬 すげえ。

ソラ こっちだ。

輝人 こっち。

ソラ また落ちた。ひかり、自分のことお願いしなよ？

ひかり 難しいな。

輝人 ……ごめんな。

ひかり え？ なにが？

輝人 ……夢ひとつ見れないような思いさせて。

ひかり ううん違うよ！ そうじゃないよ！

輝人とひかりと少し離れたところで、冬馬とソラ。

冬馬 おい来たぞ。

ソラ ひかりの病気が治りますように。

輝人 ……そういやさ、お前のおふくろは、星を集めて生きて行く。それが人生だ、って、言ってたんだ。

ひかり なにそれ。

輝人 なんなんだろうな。

冬馬 星ってなに？ なんかの比喻？

輝人 まあ、可能性とか、大好きなもの、とか。そういう意味だろ、多分。

ひかり 可能性……？ 大好き……？

輝人 人間ってのは、みえない瓶を腰に引っさげて生きてるらしいよ。

ソラ つまりその瓶に星を入れて、集めるわけだね？

輝人 お、わかってるねえ、ソラ！

冬馬 こんなご時世によくそんな綺麗ごとと言えるよね。むなしくならぬ？

ソラ 冬馬……。そんなこと言ったら、ひかりのお母さん悲しむよ……。

ひかり わたしの、お母さん？

輝人 お前が最後の星だって、言ってたよ。

ひかり 最後の星？

輝人 あの人の瓶、お前で満杯になったんだよ、きつと。だから、いつも笑顔でいられたんだと思う。

ひかり ……そう、なのかな。

輝人 そうだ、俺らも星を集めてさ、分け合おうぜ、お互いに！ な！

ひかり うん。わかった……わかった……！

輝人 わかったか。

冬馬 (笑って) ついていけないよ。ロマンチストすぎてさ。

みんな、笑う。

美博が現れる。

美博 あの一

輝人 お前！

ソラ こんなどこに来てまであたしらを捕まえにきたのか！

ソラはナイフを構える。

美博 ……よせ、私は丸腰だ。闘いに来たわけじゃない。

ソラ じゃあなんだよ！

ひかり 誰？その人、ゲートシティーの人？なんでここにいるの！

美博 ……もしかして……その子のために、命の盾を……？

輝人 ……そうだよ。妹だ。感染症がどんどんひどくなる。

美博 過酷だな。ゲートの外は……。

ソラ 今更そんなこと言いに来たってわけじゃないんだろ？

ひかりはむせ返ってしゃがみこむ。

輝人 ひかり！

美博、ペンダントを差し出す。

輝人 これは……？

美博 ……命の盾と比べれば性能は劣るが、その子の体調少しは良くなるはずだ。

輝人 (受け取って) とか言って、爆発とかしねえだろうな。

美博 ……通電殺菌ができるんだ。命の盾の試作品のひとつだ。

ソラ うさんくさい。おもちゃみたいだ。

冬馬 なんてそんなもの、僕らに渡す気になった。

美博 いや。(輝人に) おまえ、必死だったから……。

ソラ 輝人、畏だ。

ひかり、苦しそうに咳き込む。

輝人 ひかり、大丈夫か。

冬馬 おい、どうするんだよ。輝人。

美博、輝人の手からペンダントを取り、ひかりの首にかける。

美博、ひかりを撫でる。ひかり、少しおさまる。

美博 ……大丈夫だよ、これで、少しは元気になれるよ。

輝人 ひかり、よかったな！

ひかり お姉さん、ありがとう。

冬馬 おい、待て。こいつ、絶対おかしい。そんなバチもんじゃなく、お前

のその盾をおいていけばいいだろう？

輝人 冬馬！

美博 これは、国家のものだ。命より大切なものだ。渡すことはできない。

冬馬 何いってんだよ。ゲートの中には物資でもなんでもあるんだろ！？

権利だって、何だって！ それでもまだ、足りないのか！

美博 権利……？ 何の権利？

冬馬 俺たちが何を持つてると思う！？ あんたらがゲートの中にこもつ

て薬やら食いもんやらを独占してるせいで、俺たちは寿命さえ真っ当にもらえてないんだ！

美博 ……そう、なの？

冬馬 強欲にもほどがある、恥を知れ！！

美博 ……ごめんなさい……。

輝人 冬馬、やめろって！

輝人、冬馬をとめる。

冬馬 なんでだよ？ こいつは敵なんだよ！

美博 敵……

美博、輝人を見つめたのち、走り去る。

輝人 おい、待てよ！ひかりを頼む！

ソラ 輝人！

輝人、追っていく。

冬馬 なんだよ。あの女。

ソラ (ひかりに) ひかり、そのペンダント、はずしな。何が仕掛けられて

いるかわかったもんじゃやない。

ひかり いやだ。

冬馬 ひかり……。

ひかり わからない？あの人、お兄ちゃんのが好きなんだよ。好きな人

の家族に、ひどいことをする？

ソラ そんな！ゲートシティーの女と恋することなんて、許されない！

ひかり 私にはそんな関係ない。それに、ペンダントのせいで発作が治まっ

たわけじゃない。あの人髪を触ってくれたとき、心から安心できた。

あの方は、優しいひとだよ。



ソラ ひかり、そんなのは錯覚だよ。熱のせいだよ。

冬馬 ソラ、もしかして、妬いてんのか？

ソラ 馬鹿なことを云うな！

ソラはける

冬馬 おい待てよ。

ひかり 待って。

冬馬、ひかりはける。

○野外音楽堂

ノエルが構えを作る。

ノエル 敵を仕留めるには脳天をぶちぬく。ここ(関節)がうまく曲がらない。

パーツも製造中止だし、どうしましょう…。

美博走ってくる。

ノエル 美博様、美博様

美博 の、ノエル！ 待ち伏せしてたの！？

ノエル 美博様。ノエルは確かに、止めたはずですよ。

美博 でも、こうするのが、一番いいんだよ…。

ノエル 良くありません。ノエルのようなアンドロイドならまだしも、ゲート

の外に一人きりで行かれるなんて、反逆罪に問われますよ！

美博 反逆罪反逆罪ってうるさい！

ノエル ノエルには、美博様をお守りする義務があります。

美博 あーうるさい！

輝人が走って美博に追いつく。

輝人 おい！

美博、振り向く。

ノエルが警戒するように美博の前に立つ。

ノエル 戦闘モード開始。

輝人 なんだ、こいつ？ アンドロイドか？

ノエル こいつではありません！ ノエルです！

輝人 うわ、怒りやがった…。

ノエル 美博様？ この方は？

美博 ……と、友達なんだ。

輝人 え？

ノエル この方が？ ゲートの外の、この方が？

美博 そう。この人が色々、助けてくれるから、ノエルは心配しないで。

輝人 え、え、えつとお…？

美博 帰ったら、話すから。少しの間、私を信じてよ、ね？

ノエル ……ちゃんと、話してくださいよ。ずっと、待ってますからね。

美博 うん。

ノエル 戦闘モード解除。

美博、ノエルを見送って

輝人 ここは？

美博 野外音楽堂…楽器を練習する人も見るのが好きで、時々ひとりで来るんだ。

輝人 そうか、いいところだな。

美博 さつきは、余計なことをした。

輝人 いや、ありがとう。ひかりのためにペンダントを持ってきてくれたのに、うちの家族がひどいこと言って、悪かったな。

美博 気にするな。団結力がある家族で羨ましいよ。

輝人 ……血はつながってないんだ。

輝人 ……血はつながってないんだ。

美博 え！？

輝人 俺とひかり以外は。みんな親を亡くした孤児さ。

美博 そんなには見えなかった。

輝人、美博の隣に座る。

輝人 おふくろがひどい感染症で死んだ後、12の俺はまだ5つのひかりを抱えて、ゴミ捨て場でさまよった。少しでも金になるものを探し、売って暮らしてた。

美博 あのカメラはその時に、拾ったんだな。

輝人 ああ。

美博 70年前のレアな骨董品だぞ、売れなかったのか。

輝人 動くかどうかチェックするため、苦労して電源を入れた。すると、カメラから突然、光が射した。プロジェクターがついてたんだ。壁にキラキラした水の反射のようなものが映しだされ、その中心にひとりの……ひとりの女の子がいた。

美博 お父さんと海に行ったときの私だ！

輝人 俺と同じくらいの年だろうか、こっちを見て笑っていた。

美博 あの頃、海の一部は、まだ汚染されていなかった。楽しかったあ。

輝人 海の太陽にも負けない、まぶしい笑顔。

美博 幸せだった。これから不可能なことなんて何一つ無いって思ってた。

輝人 花冠をして、白いワンピースを着た写真も。

美博 12歳の誕生日よ。懐かしいなあ。お父さん、このカメラは旧式だからこそ、ノスタルジックな写真が撮れるらだって、記念日にはいつも使ってた。

輝人 いい写真だった。なんだろう……永遠って感じがした。

美博 永遠？

輝人 この女の子は、永遠に笑顔なんだ、って思ってた。

美博 でも、お父さんは死んだ。

輝人 ……俺は、カメラを売るのをやめた。いつもその笑顔を携帯したかった。

美博 私は笑えなくなった。

輝人 冬馬やソラと会う前まで、俺は孤独だった。周りみんな敵だった。少しでも気を抜けば、すべてが盗まれ、壊された。

美博 お父さんの死んだ後、母は、私を置いて火星に行ったわ。出世のムシだったもの。

輝人 栄養不足がたり、ひかりが病気になった。ゴミ探しと妹の世話に明け暮れた。看病に疲れた夜、ふとカメラの電源を入れてみる。

美博 ……話し相手はアンドロイドのノエルだけ。

輝人 天井にあの子の笑顔が写る。ああ…天使だと思った。

美博 寂しかった…けど、何かひとりじゃない、って不思議な感じもした。

輝人 俺もだ。

輝人と美博 だれかがいつも一緒にいる。いつか出会う誰かと。

ふたり、見詰め合う。

手が触れ合う。

キスをしそうになるが、美博は輝人の手を振り払う。

輝人 あ。そうだお前、俺をバイキンだと思ってやがったんだった。

美博 ち、ちがう！ 今のはそういう意味じゃなくて……！！

輝人 じゃあどういう意味だよ。ああ！？（美博の顔を指差す）

美博 えっ！？

輝人 お前、顔……。ユデダコみてえになってるぞ。

美博 うわあ！（顔を隠す）

輝人 ゲートの中間でマジで免疫ないんだな……色んな意味で。

美博 本当に、死ぬかもしれないんだぞ！

輝人 は？

美博 ……ゲートシティーの上流階級では、基本的に身体的接触が禁じられてるんだ。

輝人 なんでえ！？

美博 恋愛が、ご法度なんだよ、つまり、キス……とかすると、感染のリスクが高まるから！

輝人 ……なんだそれ。結婚とか、どうすんだよ。

美博 遺伝子相性の良い者が選ばれて、子供を作るんだ。

輝人 お前の世界、間違ってるよ。

美博 ……そうかな？。

輝人 どんなにゲートシティーが豊かでも、俺は、あつちを選ぶなあ。

美博 ……これからも、命の盾を狙うのか。

輝人 いや。なんか良い方法、考えとくわ。

美博 ……信じていいんだな。今の言葉。

輝人 おう！ 信じとけ！

美博 （ふと微笑んで）それか、もう二度と、会うこともないな。

輝人 そうだな。

美博 あ、そうだ……これ。（カメラを差し出す）

輝人 え、家族の思い出の詰まった大切なものだろ？

美博 ……持って……いてほしい……私を

輝人 （受け取って）……

美博 （くしゃりと顔がゆがんで）さよなら。ゲートの外の人。

輝人 さよなら……ユデダゴ。

美博 ユデダゴじゃない！

輝人 輝人だよ。名前。

美博 輝人……？

輝人 お前は？

美博 美博……。

輝人 じゃあな。美博。元気でな……。

美博は少し笑って去っていく。

輝人は美博の背中をじっと見ている。

M3「春を追いかけて」 美博・輝人／沙里花・新川

心は置き去りなのに世界は元通りになった

いとしいあなたのいない明日はいらぬ

春が去っていく 不安と夢を連れて

心は追いかけている

あなたの声を 目を 手のひらを

優しい恋はいつしか凶暴な魔物にばけた

果てのない欲望は捨てて 愛に替えたい

春が燃えている 痛みと希望の中で

心は求めている

あなたの微笑みを 言葉を

あなたを

あなたを

春よ逃げないで このまま腕の中へ

心は追いかけている

心は追いかけている

貴方の声を 目を 手のひらを

美博退場。

輝人も退場。

○ 新川の研究室

新川が左手の指を動かしている。

バイオリンをギターみたく抱えて弦を押さえる。右手で弦を

弾くが、音がずれてため息を吐く。

そこへ沙里花がやってくる。

沙里花 あーあ。あなたに似た人でも探そうかしら。

新川 ……。

沙里花 このまま結婚していいの？ 美博ちゃん、ちょっと噂になってるわよ。

新川 噂？

沙里花 ゲートの外の男と通じてるっていう。

新川 お前が密告したな。

沙里花 さあ、どうかしら。

新川 なるほどね。納得いったよ。結婚に気乗りがしない理由。そいつのせいか。どんなやつなんだろう。

沙里花 私、見たわ。あなたと違ってワイルドで…なかなかいい男だった。

新川 ふん

沙里花 ……このまま結婚に踏み切ったって、不幸だわ。

新川 今も不幸なんだ。ましな不幸があるなら、僕はそっちを取るよ。

沙里花 ……あの子のこと、好きなの……？

新川 君よりはね。ずっと。

沙里花 あはは。グサツときたあ……。

新川 ……結婚相手がシステムから通知された時、一体どんな奴か、興味本位で見に行った。士官学校に首席で入ったと聞いていたから、ゴリラみたいな奴かと心配だったんだ。

沙里花 へえ。そういうところはふつうの男子なんだ。

新川 彼女は、学生の群れから離れて、廊下に立って窓の外を眺めていた。

寂しそうな横顔だった。

沙里花 優等生は孤独なものよ。

新川 そっと近寄った。彼女は小声で歌っていた。あー、透き通ったきれいな声だった。

沙里花 はは、それで恋したってわけ？

沙里花 ……へえ、珍しいわね……。

新川 私の研究室に、なにしに来た。

沙里花 そんな邪険にしないでよお。

新川 困るんだよ。

沙里花 ……そうよね。結婚するんだものね。

新川は弦をいじっている。

新川 それから、ずっとあのメロディーが頭でなり響いている。

沙里花 ばっかじゃないの。医者にみてもらったら？

新川 ……早く、子供、欲しいんだ。

沙里花 は……？

新川 あの子と僕の遺伝子を色濃く継げば、音楽の才能があるはずなんだ。

沙里花 子供まで、あなたと同じ夢を見るとは限らないじゃない。

新川 もし、同じなら？ 僕、もう一度、夢が見られるようになるだろ……？

沙里花 だめよ、あなたはあなたの夢を見つけないきや……！

新川はバイオリンを放り投げる。

新川 よくそんなこと言えるな。君が僕の夢を奪ったくせに！

沙里花 それなら私を見殺しにすればよかったじゃないの！

新川 ああ、そうだね。そうすればよかったよ……。

沙里花は首を振って目を閉じる。

新川 (冷静に) 僕の視界はね、沙里花。あの日からずっと曇ってる。息を

しても、ろくに酸素が頭に入ってこない。そういう感覚、わかる？

沙里花 わかるわよ！ どうしてそうなったのが自分だけだと思うの！？

新川 あの子だけが、この暗い霧を晴らしてくれるんだ。窒息寸前の僕に、

優しく酸素マスクをあてがってくれるんだ。

沙里花 あなたが傷ついたのは、体よりも、頭のほうだわ……。

新川 そう思うならもう放っておいてくれよ。君を見てると手あたり次第物

を壊したくなるんでね……！

新川、周囲のものを破壊し始める。

沙里花はバイオリンを拾って新川に差し出す。

新川 なに？

沙里花 楽器。続けて。

新川 やめろ。

沙里花 昔のあなたに戻って……。

新川 そんな奴、死んだよ。

新川は沙里花の横を過ぎて去ってゆく。

沙里花はぼんやりとその場に座り、バイオリンの弦を一本は

じく。

○士官学校

篠宮上官と美博がやってくる。

美博 お話して何でしょうか？

篠宮上官 あなたが、ゲートの外の男と通じている情報が来ています。

美博 ……いったい誰が。

篠宮上官 私は信じたくありません。…が、あなたは、この士官学校を首席で

入学した希望の星です。もし、心当たりがあるのなら、接触するのは

ただちに止めなさい。彼らはゲートシティー破壊しかねない危険分子

です。

美博 わかっています。

篠宮上官 警告しましたよ。話は以上です。

篠宮上官、去る。

立ち尽くす美博

背後から新川が現れる。

美博 うわあああ！新川さん。

新川 上官に呼び出されていたそうですね。

美博 何でもありません。何か、御用ですか？

新川 結婚式の打ち合わせを進めましょう。式場についてなんですけど。
美博 あ……はい。あの。もう少し、時間をかけて、考えませんか。
新川 何度も言わせないでください。そうやって相手に時間を割いたりするから、人間関係はもつれるんですよ。
美博 もつれたら、また直せばいいじゃないですか。一生、過ごす相手です。そんな簡単に心を決められません。
新川 やっぱり噂は本当なんですね。
美博 え？……。
新川 美博さん。恋愛の頂点にあるものが何か、わかりますか。
美博 なんですか。
新川 殺人です。
美博 また、そんな……。
新川 僕らはね、孤独で、いいんです。犯罪を捨てるために、孤独を取ったんです。
美博 馬鹿げてますよ。私は、犯罪なんかしません。
新川 こういうデータがあるんですよ。人との繋がりを重んじた時代の犯罪件数は、システムを重んじる現在と比較すると、約十倍になる。
美博 それに、誰かと深く関われば、色んな気持ちにはなるかもしれないけど……。
新川 ヒトの歴史がね、こう見なしたんです。愛は、人間の手に負えるものじゃなかったのだと。
美博 愛のない人間を、人間と呼べますか？
新川 科学やシステムに依存しない人間も、もう人間とは呼べないのでは？
美博 納得できません、私は……。
新川 これ、ね。(左手を見せる)
美博 え？

新川 僕、本当はね。こんなところで研究なんか、したくないんです。バイオリニストにね、なるはずだった。
美博 そう、なんですか？
新川 遺伝子的にも、充分可能でした。でも、昔、ある女の子が、怪我をしそうになって、僕、庇ったんです。咄嗟のことでした。
美博 ……。
新川 僕の人生の中で、愛と呼べるものがもし、あったのなら。その瞬間でした。
美博 好きだったんですか？
新川 そのときはね。
美博 でも、その女の子は、救われたんでしょう？
新川 自分の夢を犠牲にするほど、愛してなんかいなかった場合、ね。恨みますよ。自分の行動も、彼女のことも。
美博 そんな……。
新川 ちゃんとコントロールすれば、うまく行きます。何事も。
美博 そんなの、嫌です！ 結婚したら、子供だって生まれますよね。子供は、私たちに何の愛情も通ってないところを、見るんですよ？
新川 ははは。はあ……僕ねえ、よく喋る女、嫌いなんですよ。
美博 反論したら、よく喋る女って評価になるんですか？
新川 声のトーン、落とせませんか。
美博 話をそらさないでください！
新川 新川、左手で美博を殴る。
美博 ええ……！！？
新川 あーあ。君のせいですよ。僕は、忠告しました。
美博 ……なにそれ……！！？
新川 殴ると本来、殴ったその手が、痛いんですよ？

美博 ……。

新川 義手でよかった。何も感じないや。

美博 来ないで

美博は近くにある鋏を握って構える。

新川 ほら。早速証明になったじゃないですか。

美博 何の、証明です……!?

新川 恋愛の頂点は、殺人。僕らはお互いを知り過ぎたんです。

美博 何も、何も知らないでしょ!? 私も、あなたも、まだ何も!

新川 いいえ。互いを知らなければね、衝突なんかしないで、済むんですよ。

新川は背を向ける。

新川 刺してみます?

美博 はあ!?

新川 いいですよ。その価値があるとは、思わないけど。

美博、鋏を捨て走り去っていく。

新川、突然崩れ落ち、義手で床を殴る

新川 どうしてだ、どうして僕は!

暗転

○美博の家

テレビの声「アンドロイド関節体操―!」

ノエル、テレビを見ながら関節体操をしている。

他のキャストもアンドロイドとして踊る。

美博が帰ってくる。

ノエル ダンスモード解除。

アンドロイド、口々に「お疲れ様です」と言っってはける。

ノエル 美博様、おかえりなさいませ。関節がよく動くようになりますよ。

美博 ……。

ノエル 美博様、どうかなさいました。

美博 ……どうしたらいいんだろ?!

ノエル 問題をお聞かせくださいませ。

美博 やっぱり愛は、人間の手に負えないものなの?人間を破滅させる有害なものなの?

ノエル、ものすごいスピードで以下の言葉を発する。

ノエル 検索モード「愛について」……愛の光なき人生は無意味である(シラ

ー)、人が天から心を授かっているのは、人を愛するためである(ポワ

ロー)、愛されたいという欲求は、うぬぼれの最もたるものである(ニ

ーチエ)、生涯ひとりの人間を愛することは、一本のロウソクが生涯

燃えることと同じである(トルストイ)、愛は死よりも死の恐怖よりも

強い(ツルゲーネフ)……

美博、ノエルを遮って頭を抱える

美博 分からない分からないよう……一体、どうしたらいいの?いま、す

ぐにでも輝人のところに行きたいのに、あの人はゲートの外の人、私

達を脅かす存在、愛してはいけない人、頭では分かっているのに、何

の答えも出せない。ノエル、教えて!

ノエル アンドロイドのコンピューターは、人間の頭脳をモデルに設計されて

います。なのに「愛」はコンピューターでは制御できないものとして、

インプットされていません。人間の愛もきっとそこ(頭)にはないの

です。

美博 では、どこにあるの?

ノエル ここ数日の美博様を観察したところ、いちばん変化し高鳴っている部

分……おそろく……

ノエル、美博の胸を指す。

ノエル 人間だけが、愛を知るので。そこ(胸)に答えがあるのではないですか？

美博、ノエルを抱きしめる。

美博 ノエル、ありがとう！

ノエル あの、ひとつ言葉が残っていました。「愛は言葉ではなく、行動なのよ」

オードリへップバーン…。

美博 …行って来る。

ノエル お戻りは？

美博 いつか、必ず迎えに来るから。

美博、走り出す。

○ゲートシティーの道

沙里花・谷中候補生と宇崎候補生が歩いている。

美博が走ってくる。

沙里花 美博ちゃん？

宇崎候補生 沢村候補生、どこへいくのですか？

美博 あの、ゲートの外のパトロールに行つてきます。

谷中候補生 そういう指令は出ていませんが。

美博 あ、いや、篠宮上官から、私に特別な任務が…。

宇崎候補生 おかしいですね。

美博 急がなくては(駆け出そうとする)

沙里花 待ちなさい

沙里花、美博の腕を掴み

美博 沙里花！

沙里花 (ささやいて) あなたはもう要注意リストに載っているのよ。

(宇崎らに) 篠宮上官に確認してきて。

谷中候補生 わかった

宇崎・谷中候補生、反対側に去る

美博 沙里花、見逃して！

沙里花 任務よ。そんなわけには…。

美博 新川さんの傷、あなたを助けたときのものだったんですってね。

どうして、私に話してくれなかったの？

沙里花 ……あなた、彼のことロボットみたい、って言ったわね。私はそこが

好きだった。あの義手と同じように、心もアルミかクロームみたい。

冷たくて揺るがない…そこが安心する。でも今は違う。あなたのことを

語る時、熱っぽくなって、ツバが飛ぶの。びっくりしちやった。…

あなたのせいよ。遺伝子適合率一位の沢村美博ちゃん。

美博 沙里花…：私は新川さんと結婚しない。

沙里花 ゲートの外の人のところに行くの？国のシステムに背くことになる

わ。

美博 いまこの時から、システムでなく自分の胸の…(手を当て)鼓動に従う。

沙里花 新川さんはどうなるの？

美博 (ささぎって) あなたも自分の胸に従って。新川さんのこと諦められないんじゃない？国家やシステムが人の心に湧き出るものを抑えることとはきつと無理なのよ。私はもうゲートシティーにはもどらない。

沙里花 美博ちゃん！

美博、走り出す。

○輝人たちの家

冬馬が本を開くと、輝人、ソラ、ひかりがそれを覗き込む。

冬馬 おい、みる。

輝人 なんだそれ？

冬馬 拾ったんだ。本だよ、旧式の。

ソラ それがあ？ ほぼ鈍器じゃん。

輝人 スイッチはどこにあるんだ？

冬馬 (本の表紙を開きながら) こうやってやるんだ。

冬馬 これによると、地球では1日で1億の流れ星が落ちてるんだって。

ひかり 1億！？

冬馬 でも、ここだと明るすぎるから、田舎のほうに行かないと見えないから。

ひかり 田舎に行けば、たくさん見れる？

冬馬 うん、一晩で百個くらい見つけた人もいるみたいだね。

ソラ へえー！ 願いがと百個叶うわあ！

ひかり すごい……見てみたいなあ……。

冬馬 まずは元気にならないと。

輝人 そうだな。夜の間ずっと冷たい風に当たってたら、つらいよな。

ソラ それに移動もしなきゃいけないよ？

ひかり 平気！ わたし、今なら出来るよ！

ひかりの指がペンダントに触れる。

そこへドクターがやってくる。

ドクター おお、お前ら、盛り上がってるねえ。

ひかり ドクター！ ドクターならわかるよね？ わたし、今すっごく元気なの。

ドクターはひかりの手首や耳の下に手をあてて触診する。

ドクター そうみたいだなあ。(ひかりのペンダントを見て) これが、例のや

つか？

ひかり これあると、すごく体、軽いんだよ。

ソラ そんなの持つてるなんて、気味が悪いよ。

冬馬 輝人、元気ないね。

輝人 え？ 全然！ そんなことねえよ！

ひかり ねえドクター。流れ星探しに行きたいの。だめかな？

輝人 なあ、うちの屋根の上じゃ、見えねえかな。

ソラ ちゃんと探せばあるかもよ？

ドクター 行って来い行って来い。人間、体を良くするには、心にも栄養が必要だよ。

だよ。

ひかり ありがと、ドクター！

ソラとひかりは屋根へ向かう。

ドクター輝人に近づき

ドクター「ちよつと待って」

ドクター、輝人を引き留める。

ドクター ゲートの途中で、女の士官候補生がゲートの外の男と接触していると

いう噂が立ってる。

輝人 士官候補生って、美博のことか。

ドクター 一部ではおまえを反乱組織のリーダーだといっている。この様子だと、ここにやつらが襲って来るかもしれないし、美博っていうその子

も危ない。

輝人 ドクター、よく教えに来てくれた。(走り出す)

冬馬 僕も行くよ。

輝人 いや、一人でいい。冬馬とソラは、ここを守ってくれ。

冬馬 わかった。気を付けるよ……。

輝人 おう！

○野外音楽堂付近

サイレンが鳴り、サーチライトが探照している。

サーチライトを避けるように美博がやってくる。

反対側から来た輝人と背中合わせになる。

美博 うわっ！

二人、飛び離れる。

輝人 なんだよユデダコじゃねーかよ……。

美博 美博！ ユデダコじゃないっ！

輝人 そうだった、えっと美博、なんでここに？

美博 輝人こそ。

輝人 また会えるかも、と思ったから。

美博 ここはゲートの中だぞ。どうやって……えーっ（大声）？！

輝人 なんだよ？

美博 もう一度、言ってみろ。

輝人 美博に、また会えるかなと思ったから……。

美博 輝人！

美博、抱きつく。

輝人 美博……。

美博 私も会いたかった！

サーチライトが来たので、ふたりバラバラに離れてセットの

一部に隠れる。

美博 あいつら私を探しているんだ。

輝人 俺と会ったせいで追われているんだって？

美博 そうじゃない、自分が選んだことだ。もう戻れない。

輝人 ……美博、俺たちと暮らそう。

美博 えっ！

輝人 おまえと会うずっと前から、俺はそう願ってたんだ。

美博 ずっと前？

美博 ボロボロの朽ちかけた部屋の壁に映し出した光の中で、キラキラと微笑むこの子といつか一緒に暮らせたら……っていつもいつも祈ってた。

神なんか信じないくせに……。それは、本物のその子でなくてもよかった。大人になれば、似た子に会えるんじゃないか、そしてきっとその子に恋をするんだと思ってた。そうしたら俺の瓶は星でいっぱいになるって……。

美博 星？瓶？

輝人 あ、いや、でも同時にそんな素敵なこと、自分に起こるはずはないって言い聞かせた。一生、このゴミ溜めの中で盗ったり盗られたりして、

虫のように生きていくんだ変な望みを持つなって自分に言い聞かせた。だから、あの日、倒すべき敵として、真正銘本物のその子に出くわしたとき、どんなに驚き、どんなに恐ろしかったか……。

美博 なぜ、なぜ恐ろしかったの？

輝人 神だよ。神は信じないおれに奇跡を起こしてみせた。自分が本当にいる証拠と、力を見せつけた。そして問い詰めるんだ。「敵を愛せるか」って。

サーチライトが一瞬、遠のく。

美博、輝人の方に、飛び込みキスをする。

美博、輝人の方に、飛び込みキスをする。

美博 神様はいるわ。こうやって、会えたじゃない。私は映像でも光でもない、もう敵でもない。いつでもここにいます。こうやって輝人が触れて、

キスも出来る。

今度は、輝人からキスをする。

その時、サーチライトが二人を照らし出す。

SE 笛の音

美博と輝人が驚いて音のする方を見る。

谷中候補生が走ってくる。

輝人 やつべえ……。

谷中候補生 沢村候補生。ゲートの外の人間に手を貸せば、即刻反逆罪ですよ。

美博 に、逃げて、輝人！

輝人 そんじやさいなら！

谷中候補生 あ、待て！

反対からと宇崎候補生、輝人に立ちふさがる。

手には銃。

宇崎候補生 沢村候補生！ 奴をゲートの中に入れてのはあなたですね？

美博 違います！

宇崎候補生 あなたには余罪があるんですよ。

美博 余罪？

篠宮上官がやってくる。

篠宮上官 あなた、ゲートの防犯カメラに映っていたわ。許可なく外へ出たでしょう。

美博 あれは……。

篠宮上官 ゲートの外の者と内通している証拠が出れば、除籍では済まされな
いでしょうね……。捕らえなさい。

篠宮上官が宇崎候補生に合図を出すと、

宇崎候補生が美博を捕まえる。

美博 うわっ！

輝人 美博！

輝人が美博を助けようとするも、

篠宮上官が輝人に麻痺スプレーをかける。

輝人、一瞬間にして倒れる。

美博 輝人！

篠宮上官 神経麻痺スプレーよ。命に害はないわ。

美博 輝人！ (上官に) どうして!? 輝人は、悪いことなんかしてない!

篠宮上官 あなたも士官候補生ならわかるでしょう。ゲートの外の人間がここ

にいる。それだけで、充分、罪なの。

美博 輝人、輝人、間違ってる……こんなの……!

篠宮上官が顎で合図すると、谷中候補生と宇崎候補生、頷く。

暗転

○査問室

手枷を付けられている輝人と美博。

立っている篠宮上官。傍に谷中候補生。

篠宮上官 もう一度聞く。おまえは、ゲートの外の人々を扇動してシティーを

攻撃しようとする反乱組織のリーダーだな？

輝人 何べんいつたら分かるんだよ？ち・が・い・ま・す！

美博 この人は、そんなんじやありません。ただのこそ泥です！

輝人　なんだと！

篠宮上官　沢村候補生黙りなさい。

美博　篠宮上官。私がこの人と、ゲートの外の人間と会ったことは認めます。

罰も受けます。ですが、この人は我々になんの危害も損失も加えていません。解放してください。

篠宮上官　あなたにはがっかりしました。そんなことが問題ではなくこの男が

シティーに侵入した意図が問題なのです。

美博　だから私に責任があります。

輝人　（美博に）黙れ！

篠宮上官　彼に賛同します。口を閉じなさい。話せば話すほど不利になるわ。

美博　沙里花がやって来る。

沙里花、目をあわさない。

篠宮上官　（輝人に）仲間の居場所を言いなさい。

輝人　仲間？そんなものはいない。いたとしても、言うわけがねえだろう。

篠宮上官　（ため息）；困ったわね。私に行える尋問はここまで。

沙里花　篠宮上官、自白剤の準備が出来ました。

新川が白い布のかかったワゴンを押して入ってくる。

篠宮上官　ありがとうございます。先生。

新川　どうも。

沙里花　（篠宮上官に）お疲れでしょう。休憩なさってください。

以降は私と新川先生が…。

篠宮上官　そう、助かるわ。谷中候補生、休みましょう。

篠宮と谷中、出て行く。

新川、自白剤の準備を始める。

美博　沙里花、あの時も見逃してくれたよね。もう一度…。

沙里花　どうして、捕まったの。ドジね。戻ってこなきゃ、私も新川さんもこんなことしなくていいのに。

美博　（絶望して）新川さん、助けて！

新川、美博を無視して、輝人に近づき。

新川　へえ、君が噂のワイルドなイケメン君ですか。

輝人　なんだこいつは。

美博　システムが決めた私の婚約者よ。

輝人　気味のわるい野郎だぜ。変なズボンをはいてるんじゃないか。

新川　（注射器を手に）うーん、これ（薬）で意識を朦朧とさせてする自白は、あんまり価値が無いな。

輝人　自白なんかしねえぞ。

新川　そう、自白というのは、自分の罪を悔いながら口を割るから意味があるんだ。そう思わないか？

美博　何を考えてるの？！

新川　これはやめた。

注射器をワゴンに戻し、かかっていた白い布を取り去る。

そこには銃・ペンチ・ナイフ・首輪。

新川、銃を取り上げ、輝人の顔に突きつける。

新川　これで脅すっていうのは…

輝人　；早く、殺せ。

新川　やっぱり、尋問にはならない。これ（ナイフ）も出血するしダメ、これ（ペ
ンチ）はいいねえ。ゾクゾクする…、痕が残ると面倒だな。

沙里花　；冗談やめよ。そんなの違法だし。早く自白剤、注射しちゃって。

新川 つまんないこというなよ。沙里花、この男が現れたから私も君も、美博さんも苦しんでいるんじゃないか。三人分苦しんでもらわないとワリが合わない。

美博 狂ってる。

新川 狂ってなんかないよ。美博さん、僕はね君の苦しみの種を取り除いてあげたいんだ。この男だ。この男が悪の種なんだ。

沙里花 ね、はやく自白剤を打って終わりにしましょ。篠宮上官が戻ってくるわ。

新川 いやだね。こいつの犯した罪を償うには死の恐怖が必要だ…そうだ、いいものがある。

新川、こんどは首輪を手にする。

それを輝人の首にはめながら

輝人 やめる！犬じゃねえ。

新川 いまどき犬に首輪をつけたら、動物保護法違反で逮捕されます。ま、ゲートの外の君たちなら問題ない。人でも動物でさえない。

輝人 なんだと？！

新川 沙里花、この男の枷をはずしてやりなさい。

沙里花 いいの？こいつ逃げちゃうよ。

美博 お願い、助けてあげて！

沙里花、枷に手をやる。

新川 美博さんの頼みだ。逃がしてやりましょう。

輝人、枷が外れると、美博のところに駆け寄ろうとする。

輝人 美博！

新川、手に持ったりリモコンのボタンを押す。

輝人 ギャー！

輝人、吹っ飛び、床にのたうちまわる。

新川 ワハハハハ（大笑い）

美博 輝人！輝人！（新川に）何をしたの？！

新川 心臓に電撃を与えたんだ。

沙里花、しゃがんで倒れている輝人を見る。

沙里花 生きてる。

新川 その首輪はね、つけられている人間が即死しないギリギリの電撃を掛けるように出来てる。犯罪者の逃亡を防ぐ私の傑作だ。

輝人、かろうじて立ち上がり

輝人 この野郎…

新川の方に行こうとするが、またリモコンが押され倒れる。

輝人 ギャー！

のた打ち回る。

輝人 おっと、調子に乗ってはいけない。ギリギリといっても、3回も食らえば、普通の人は死にいたる。ワイルドな君なら、4、5回はいけるかな？

美博 お願い、やめて！何でも言うことを聞く。

新川、美博に向き直り

新川 ほー。それでは国のシステムが決めたとおり、私と？

美博 ……いいわ。結婚する。

沙里花（新川に）話が違うじゃない！美博を諦めるというから、協力したのに。

新川（無視して）私を心から愛するか？

美博 愛は、人間の手に負えるものじゃないんじゃないか？

新川 ああ、そうだよ…そうだった。そんな手に負えないものを僕に吹き込んだのは君だ。

美博 私は、そんなことしてない。あなたが勝手に…。

新川 (大声で遮って) 私を、心から愛するか？

美博 心は…この胸にある心は私でもどうにもならない。心以外はあなたのもの。

新川、美博を殴る。

輝人 うおーっ

輝人、奇声をあげて起き上がろうとする。

新川、リモコンを押す。

輝人、ボタンと倒れる。

もう動かない。

美博 輝人！

新川歩み寄って、様子を見る。

沙里花 死んじゃったじゃない。

新川 息はあるね。あと1回は楽しめる。

美博 沙里花、止めさせて。

沙里花 あんたの指図は受けないわ。(新川に) 新川さん、やめて。美博はすでに犯罪者よ。システムのリストから除外されるわ。もう婚約は無効。そういう不測の事態の場合は、結婚相手を自由に選べるはずよ。

新川 だめだ。システムが指定しない相手の結婚では、子供を生むことは出来ない。遺伝子を残すことが許されない。

沙里花、新川にすがりついて

沙里花 私は子供がなくてもいいわ。ずっと一緒にいてあげる…。

新川 だけ！

新川、沙里花を突き飛ばす。

ワゴンから銃を取り、美博のところへいき

新川 もう、おかしくなりそうだ。私の前から消えてくれ。君が現れる前の世界に戻りたい。そ、そうだ、私の尋問を妨害した正当防衛というこ

とにしよう。さようなら！

美博に銃を突きつける。

美博 (救いを求めて) 沙里花！

沙里花 もうだめ！とめられないわ。

と、顔を手で覆う。

輝人、突如立ち上がり、

輝人 やめろ！

輝人、ワゴンのナイフを取って、新川に突進。

新川、向き直って、発砲しようとするが、

間一髪で、輝人のナイフが刺さる。

新川倒れる。

輝人 美博、美博！ 美博、逃げよう。

美博の枷をはずす。

美博、輝人の首輪をはずし、二人走り去る。

沙里花、新川に駆け寄る。

沙里花 なんてことを！しっかりして。

沙里花 新川さん！

新川 沙里花…おまえと一緒に遊んでいた頃、楽しかったな…。またあの頃に戻りたい…。

新川、絶命する。

沙里花 新川さん、いやだ、新川さん。

沙里花、泣く。

○輝人の家の前

よろよると走っている美博と輝人。

美博 ゲートの外に出たよ！

輝人 よかった、よかった……。

美博 ごめん……私のせいで、輝人に人を、傷つけさせた。

輝人 ……いや。小さいんだよ、お前にこんな思いさせなくて、よかった……。

輝人、がくりと膝をつく。

美博 輝人……だ、誰か！ 誰か助けて！

輝人 ばかやろう、捕まったって、死ぬんだよ、どうせ……。

美博 そんなの、わからないよ、生きてれば、なんとかなるよ！

輝人 ……家まであと少しだ。

美博 無理だよ！

輝人 家族、待ってんだよ……。俺の……。

そこへソラと冬馬が走ってくる。

ソラ 輝人！

冬馬 輝人、どうした！？

輝人 おお、さすが俺の……。

冬馬 ドクター！ ドクター！

ドクターとひかりが家から出てくる。

ドクター ど、どうした！？

ひかり お兄ちゃん！？

輝人 ひかり……。

美博 心臓に電気ショックみたいなのを何度も……。

ドクター 寝かせる。

ドクターが輝人を診る。

ひかり た、助かるよね。そうだよね！？

冬馬 ドクター？ どうなんだ。

ドクター よくここまで戻って来れたな。だが、無理をし過ぎた。

もう心臓がほとんど壊死しまっている。移植でもしない限り……。

ひかり お兄ちゃんに私の心臓、あげる。

ドクター そんなのだめだ。それにゲートの外でそんな移植手術できる病院はない。

美博 いやだ！ 何とかならないの！

輝人 いいんだよ、俺の瓶、星で一杯になった、から……。

美博 え、なに？

ひかり 星……。

輝人 美博、お前が俺の……最後の……星……。

輝人、微笑む。気を失う。

美博 輝人！ 死んじゃダメ

ひかり お兄ちゃん！ お兄ちゃん！

ソラ ドクター、何とかしろ！

ドクター 首を振る

ドクター もう、ほとんど息がない。

ふらりと沙里花が現れる。

沙里花 美博ちゃん。見つけた。

美博 沙里花……？

沙里花、手に銃を持っている。

沙里花 新川さん、死んだわ。あなたさえ、あなたさえ、いなければね……。

沙里花は美博に銃を構える。

銃声。

ナイフが落ちる。

冬馬 やめろ！ そんなことして、何になる！？

沙里花 そうね、気が、晴れるってくらいね……。でも、それで、いいわ。

ソラ なんでだよ！ なんでこんなことを……！

美博 そう……。ならそれで私の胸を撃ちなさい！

ソラ なに云ってんだ！

美博は、腹を撃たれている。

沙里花 開き直ったわね。心臓は撃たないわ。楽には死なせない！

沙里花は傷ついていない。

美博、崩れる。

美博、いとおしそうに輝人の頬に触れる。

美博 ……死ぬことは怖くない……。輝人のいない毎日を生きる方が、墓の下よりずっと暗くて恐ろしい。そんなのは絶対に、いやっ！

美博 ごめんね、沙里花。私と輝人をあなたのお父様の病院に運んで頂戴。

冬馬 さっきの聞いたる。あんたは、輝人の最後の星なんだ。生きなきゃダメだ。

沙里花 あなた、騙したのね……。

美博 ……私のは、空っぽのままよ。輝人以外の何を星として生きれば良い？ 教えて？ ……私にはわからない。

美博 あなたなら、私の気持ちわかるでしょ？

美博立ち上がり、沙里花に近づく。

ドクター、美博に駆け寄り、様子を見て、

美博 ……私の瓶は、空っぽのままよ。輝人以外の何を星として生きれば良い？ 教えて？ ……私にはわからない。

ドクター（沙里花に）早く、処置しなければ二人ともダメになる。俺とあん

美博 ……私にはわからない。

たなら、ゲートの中に運べる。

いつのまにか、美博の手には輝人のナイフ。

冬馬 頼む、どっかだけでも、助けたい。

沙里花、美博の手をとって。

沙里花 あはは……。そんな握り方じゃ、人を殺せないわ。

沙里花 ……あなたの気持ちなんて分からない……。私は……。私はこんなにまだ

美博 さあ、撃てよ。でなければ、あなたを……

人を……愛せない。

美博 ……沙里花……。

美博、ナイフを手に沙里花に突進する。

沙里花 ……父に連絡してくる。

冬馬 やめろ！

沙里花、立ち去る。

冬馬がさえぎろうとするが、潜り抜け、

沙里花に体当たり。

ドクター（ソラと冬馬に）ふたりを運ぶ車を探してきてくれ。

ソラ・冬馬 わかった！

ソラ、冬馬はける。

美博、輝人のほうに、這っていく。

美博 ひかりちゃん、私を輝人のそばに・・・。

ひかり、ドクター、美博を助け、輝人の隣へ。

美博、輝人の手を握り、天を見上げる。

美博 神様、どうか、輝人を愛したこの小さな心臓が、

彼の胸でふたたび鼓動を打ちますように。

私の愛が、彼の中で生き続けますように。

ドクター おい、しっかりしろ。

美博、意識を失う。

ひかり (絶叫して) 美博さん！お兄ちゃん

暗転

○輝人たちの家

電動ドライバーを回す音が聞こえて、明転。

冬馬、ソラが汗だくになってノエルを修理している。

冬馬 なんて旧式なんだ。ネジ山が潰れて、締まらない。

ノエル 失礼ですよ、旧式だなんて。ヴィンテージとおっしゃって下さい。

ソラ ゴミ捨て場から、必死に探して、拾ってきてやったんだぞ。

文句を云うな！

ノエル それはそれはご苦労様でした。私は、美博様に会えるというから、

こんなボロ家でも、来て差し上げたんですよ。

うるさいな。従順モード、とかないのかな？

何、それ？ボタン？

ひかりやってくる。

みんなもうすぐ、ご飯だよー。

ひかり、すっかり元気である。

ドクターもやってくる。

さつき、ゲートシェイアの裁判所から審判が出た。

どうなった？

沙里花さんは、無罪になったそうよ。

美博さんと新川さんは、私たち貧民の反乱と戦った名譽の戦死：

(ノエルに聞こえないように遮って) 俺たちは、いつも悪者なんだ

な。

美博さんのお母さんが動いたんだろう。上級官僚だからな。

お母様、つらかったんだと思う。火星にすぐお帰りになられたん

だって。

それでこいつ(ノエル)を廃棄処分したんだ。

あなたたち何を言っているのですか？早く美博様にあわせてくだ

さい。

……お兄ちゃん(呼ぶ)

輝人、やってくる。

あら、あなたは…美博様のお友達…。美博様は？どこ？美博様

は？ノエルが参りました。美博様、どこですか？早く帰りましょ

う？

……ここにいるよ。

輝人

自分の胸を指差す。

ノエル 何を言っているの、美博様。ノエルが参りました。

ノエル、冬馬やソラに食って掛かるようにして

騒いでいるが、やがて輝人の胸に惹きつけられる。

ノエル、ふと輝人に近づいていく。

ノエル この音、忘れもしない、美博様の心音：鼓動…。

輝人 そうだよ、美博はここで生きているんだよ。

ノエル、輝人の胸に耳をあてる。

ノエル 美博様…。

輝人 ノエル、おれは、この心臓で美博と生きる。ゲートの中と外の人

間がいつか、手をつなげる日が来るように…住んでいる場所が

どこであれ、自由に友達になり、愛し合えるようになる日がくる

まで、あきらめずに、静かに戦い続ける。

ノエル 美博様があなたを変えたのですね。あのお方は、そういうお考え

の方でした。ノエルのようなポンコツを大切にしてくださいさるよう

な優しい方でした。いつぞや、ノエルが廃棄処分されそう…

輝人 (遮って) ノエル、聞こえないか？美博の声が。

ノエル え？…。(微笑んで) 私には…。

輝人 俺には、聞こえるんだ。はつきりと、今も…。

美博(声) なぜ、どうやって、あなたは私のところにきたのですか？

どなたの案内でいらしたのですか？

輝人 愛に導かれてやってきました。あなたがどれほど離れていようと、

そこがはるか遠く、海に洗われる広大な岸边であったとしても、

私はあなたという宝を求めて旅に出ましよう。

M4 「瓶の中の星」全員

星を集める人たちがいた

みえない瓶に 光を詰めて

世界が闇に沈んでも

きつと瓶の星は息絶えないだろう

僕らは 旅人

海を渡り、愛を探す

あなたを羅針盤が今

示すだろう

ごまかしきれない 哀しみが

僕らの視界を 曇らせて

星くずが 掴めなくても

あなたとの正義がいま星座になる

鼓動にあなたがあふれてる

月より輝く星となる

僕らは光を受けて ともにゆこう

この大地に

愛よ 降り注げ

愛よ 降り注げ

M4イントロ入って

(完)